



(公社) 日本建築積算協会

関西支部総会 講演会

「建築と〇〇 —U35 世代の挑戦」

2019年4月19日(金)

16:50 ~ 17:50

会場：ホテル日航大阪
4階「白鳥の間」

講師：日本建築協会 U-35 委員会



三谷 大介
鹿島建設(株)



宮武 慎一
(株)安井建築設計事務所



鬼頭 朋宏
大成建設(株)



平岡 翔太
(株)大建設計

■日本建築協会 U-35 委員会とは

鬼頭：本日は、お招きいただきましてありがとうございます。私たち U-35 委員会は、創立 100 周年を越える組織である日本建築協会における「若手設計者を中心とした協会活性化のための活動プログラム」として、組織設計事務所やゼネコンに所属する概ね 35 歳以下の設計者が集い、2013 年 4 月に組織された委員会です。本日はメンバーのうち三谷、宮武、鬼頭、平岡の 4 人で講演会をさせていただきます。本日の講演会のタイトルは「建築と〇〇—U35 世代の挑戦」としています。単なる活動紹介ではなく 4 人のトークセッション方式として活動する際のメンバーの想いや生の声をお聞きいただきたく思います。

活動目的としては①業種・組織を超えた同世代をつなげるプラットフォームの創出②U-35 世代の多角的な視野の獲得③建築における多様な価値の社会への発信 を挙げています。

これらの目的を実現するため、2 つの主な活動を続けてきました。1 つは、建築以外のさまざまな分野のゲストを訪ねて座談会やワークショップを行う、建築の外から建築を考える input の場である「talk baton」。

もう 1 つは委員会のメンバー間で共有している「建築と社会」にまつわる問題意識や talk baton などでの活動を通じた気付きなどに基づいて、皆で深く掘り下げ、その価値を広く発信するために開催している公開イベント企画「action」です。先ほど説明した日本建築協会は発足当初から毎月この「建築と社会」という機関誌を発刊しています。今月号で 1165 号でしたが、会の発足当初から建築だけでなく、社会についても一緒に考えていこうというような意思を持った組織に私たち U-35 委員会は所属しています。

ただ、建築と社会というと非常に広い概念であり、つかみづらい部分も多いため、talk baton と

action では、共通の手法として、「社会」というものを身近なレベルにスケールダウンし、「建築と〇〇」というテーマを企画ごとに設定しています。

活動場所は、各メンバーが所属する会社にて月に1回ごとに持ち回りで打合せを行っています。各社をまわるため、様子が分かり参考になります。

宮武：会議後も食事をしながらメンバーで交流を図っています。議論が白熱時には終電を逃すこともあるくらいです。

定例会議は月 1 回ですが、企画直前は月 3 回以上になることもあります。

鬼頭：また委員会リーダーの継承システムとしては、リーダー 1 名、サブリーダー 1 名を選出するのですが、任期 1 年の交代制としています。1 年サブリーダーを務めたら翌年リーダーとなり、新たなサブリーダーを選出します。このシステムが委員会の新陳代謝を促して組織活性化を図っています。

■活動の軌跡

【1st action 「建築と木材」】

三谷：これまでに日本の文化である木材と建築の関係性を考えた企画です。本日は 1st action、2nd action を企画した際のメンバーはいないのですが、当時のメンバーから企画にあたっての思いを聞きました。委員会であくさんの議論を行う中で、当時のメンバーの思想を、現在のメンバーも継承できる環境が出来上がっています。この企画は U-35 委員会発足最初の action ということもあり非常に悩んだと聞きました。当初から活動目的があがっているプラットフォームをつくるために、当時注目を浴びていた木材を利用した建築の実例を取り上げました。そこで参加者を募って企画を行うことで同世代の活動の場としたようです。

宮武：現在の私たちの活動も全てこの最初の action があったからといえます。



平岡：このとき私はまだ委員会には所属しておらず新入社員だったのですが、先輩とともに企画に参加したことを覚えています。ビール片手に講演会を聞くという方式が印象的で、同世代が多くプラットフォームとなっていました。

【2nd action 「建築と拡張」】

三谷：グランフロント大阪がオープンして大阪のトピックとなった年でした。U-35 で追求している一つに建築という「モノ」のみでなく、それがつくりだす「コト」を考えるというテーマがあります。それが最初に発露したのが 2nd action でした。

鬼頭：拡張について考えるということは公共について考えるということに通じると思います。

【talk baton】

鬼頭：1st action 2nd action を経て talk baton の企画もスタートします。talk baton は年間何度も行っている企画です。

三谷：私はこの talk baton が始まるころに委員会に入りました。私たち設計者は建物を設計して引き渡して終わりではないと考えています。ユーザーに寄り添い、若い世代が何を考え必要としているか、建築以外の様々な分野を理解して設計者の職能を広げるべきだと思います。そのような課題意識があつて talk baton という企画が生まれました。baton という名前の通り、一度きりで終わりではなく、次につなげる企画となっています。

宮武：建築以外の様々な分野の同世代の方を招いてディスカッションを行っています。

平岡：「建築と不動産」は私も参加し、同世代の方からの刺激を受けることができました。

【3rd action 「建築と共有」】

三谷：SNS が広まり、場所がなくてもコミュニケーションが取れる時代となりました。そのような時

代において建築はどう在るべきかという課題意識をもち、次世代を担う学生を対象に共有をテーマにしたコンペを開催しました。審査員にはシェアハウスの設計などで共有のスペシャリストである建築家の猪熊純先生と京都大学の前田昌弘先生に審査員を依頼し、メンバーも一緒になって審査しました。学生が提出した案は、アイデア色が強く実現可能か分からない案が多かったのですが、猪熊先生が選出した案は現実的に即したリアルな案でそのギャップが印象的でした。

【4th action 「architect & society/architect in society」】

鬼頭：日本建築協会 100 周年に合わせて海外で活躍する若手建築家 4 名にゲストをお招きして建築と社会のよりよい関係性について考えた企画です。私が委員会に参加したのもこの時期です。

宮武：いくつかの企画を経て、次は海外に目を向けてみたいという意識が芽生えたのでこのような企画としました。

三谷：海外に目に向けているならば実際に海外に行ってみようということでベトナム、香港、シンガポールという異なる3つの都市にフィールドワークに行きました。この企画の話だけで時間が終わってしまうくらいあるので詳しくは割愛しますが、訪れた都市を見て、そしてゲスト4人とのパネルディスカッションで感じたのは、どの都市も課題を抱えていて、それらをネガティブに捉えるのではなく、建築があるいは建築家が社会に貢献できるチャンスであるということです。高齢社会や人口減少を考えることで都市や建築への愛着を増していくということがあると思います。

【内田樹先生対談「社会の側から建築を見る」】

鬼頭：神戸女学院大学の内田樹先生のご自宅

に併設された道場「凱風館」にて対談を行いました。

宮武：100 周年記念を終えて燃焼し一区切りついた雰囲気があったので、次に何をするか考えていた節目の時期でもあります。

三谷：建築の土俵で建築関連の自分たちだけで考えるのではなく、もっと社会的な目線をもった方の意見を聞きたいと考えていました。

宮武：私はもともと内田先生のファンで書籍もたくさん読ませていただいていたのですが、出身校である神戸大学で講演会が開催されることになり参加しました。講演会後に、アポ無しで U-35 との対談企画を開催したい旨を伝えたとこ

ろ快諾いただき、実現することができました。

三谷：AI と人口減少が進む社会がテーマでした。人間がすべきこと、建築設計者がすべきことという問いを内田先生に投げかけました。

宮武：内田先生からは、そのような時代だからこそ人間のもつ身体性や直感力が重要だということ意見をいただきました。

【5th action 「建築と未来」】

鬼頭：内田先生との対談を経て、次に何をすべきか考えたのが 5th action です。U-35 委員会は建築設計者の集まりですが、それ以外の分野で活躍する同世代とともにディスカッションをしたいと考えフューチャーセッション方式の企画としました。ゲストには同志社女子大学の

上田信行先生と京都大学の前田昌弘先生にお越しいただきました。

宮武：上田先生とは建築家の小堀哲夫さんの設計した福井県の nicca innovation center の見学会で初めてお会いし、その人柄に感動し、企画について突然のメールを送ったのですが、快く引き受けてくださりこの企画も実現しました。

三谷：テーマは「20 年後、幸せにすまう」としました。

鬼頭：上田先生はワークショップの達人です。



私たちが企画でワークショップを行うことが多いので、上田先生には大変勉強をさせてもらいました。

宮武：提案の発表方式は寸劇で表現しました。

鬼頭：丸一日の企画で、多くの方が初対面だったのですがみなさんに充実した時間を過ごしていただけたと思います。また上田先生のゼミ生もチームをつくり自らイベントを企画していて、私たちが参加させていただいたりといったつながりもできました。企画は当日行って終わりではなく後日振り返り、反省点を挙げて次回の企画につなげるようにしています。

宮武：5th action では体を使った発表がとても刺激的で楽しかった一方で、少し抽象的な提案が多く具体的な提案が少なかったのでは、というのが課題として残りました。

【6th action 「建築と OSAKA」】

鬼頭：6th action は第2回フューチャーセッションという位置づけで「建築と OSAKA」というテーマで行いました。5th action の反省点である具体性のある提案を狙って私たちが良く知る大阪をテーマにしよと考えました。また英字表記なのは2025年大阪万博開催が決まり、グローバルな都市として大阪を表現しています。グローバルな都市づくりとは、ともすれば画一的で空虚な都市になる危険性もあります。大阪の泥臭い一面や愛着をどう残しつつ、世界を受け入れる都市として発展していくかが課題でした。ゲストにはエウレカの稲垣淳哉先生と京都大学の前田昌弘先生にお越しいただきました。この企画では参加者に大阪を肌で感じてもらうために実際に街に出てフィールドワークを行ってもらいました。各チームで外国人にインタビューを行い、大阪の魅力的な場所についての写真を見せてもらい収集しました。集めた写真は SNS ツイッターの共通アカウントにアップロードすることで参加者がリアルタイムで見れる環境をつくりました。集めた写真を元に、大阪の魅力について議論と分析を行い、未来の大阪を魅力的にする提案を発表してもらいました。この企画を終えてからまだ一週間も経っておらず今後座談会を行い振り返りの場を設けたいと考えています。

平岡：この企画を行うにあたり、私たち自身で実際にプレ調査を行ってみたんですが、予想以上に外国人の方の反応が良く、企画に自信を持つことができました。

【action 打上「建築と温泉」】

三谷：action を行うにあたり長い期間かけて委員会で議論を行い、準備をします。action を終わるとその慰労をかねてメンバーで温泉へ行きます。

平岡：例えば大分の別府へ行った際は、クラウドファンディングによって遊園地を温泉へコンバージョンし町おこしを行う事例を体験したりしました。

【担当 PJ 見学会】

鬼頭：委員会メンバーは普段は建築設計に携わる設計者です。各メンバーが設計担当したプロジェクトが完成したら見学会を行ったりもしています。先日、私の設計担当したプロジェクトもメンバーに見てもらいました。メンバーは同じ設計者ですので、見学会後の懇親会では厳しい意見もたくさん出て勉強になります。

宮武：私は、自邸を設計した際にメンバー向けに内覧会を行いました。さすがに自邸に対しては、厳しい指摘というのは無かったです。(笑)

【AAF 主催 U35 展日本建築協会 U-35 委員会企画トークセッション「設計者のしごとと組織で働く U35 世代と建築」】

鬼頭：私たちが普段実務で行っている設計について発表する場もあります。AAF が主催する U35 展の一環でメンバーが設計担当したプロジェクトについて発表するといった場です。2016～2018年まで3年連続で行っているのですが、毎回メンバーを選出し、テーマごとに分かれて発表を行います。単なる作品紹介とならないように、若手設計者として自分がどのような役割を果たしたか、建築や社会のどのような部分に貢献できたかということ伝えたいと考えています。来場者は学生が多く、普段組織に所属している私たち設計者の顔が見えて、設計のしごとについて理解を深めたいと思っています。

平岡：私は当日の発表以上にメンバーのみで行ったリハーサルが印象に残っています。みんな良いイベントにしたいことから、発表内容にたいして厳しい指摘が入りました。同じ設計者からの指摘なのでとても勉強になりました。

■出版企画

鬼頭：また U-35 委員会のこれまでの活動内容

などをまとめた書籍出版を企画しています。現在出版社と打合せを重ねて、完成を目指しています。発売された際には是非ご一読よろしくお願ひします。

■活動から得てきたことと今後の U-35 委員会

三谷：私たちのように組織に所属している設計者が担当するプロジェクトは社会に与える影響が大きいと思います。建物をただ建てるだけではなく、いかに良い社会になるように貢献できるかが設計者には問われていると思います。私たちの活動は、今すぐ何かが生まれるわけではないかもしれませんが、このような活動を行うことが建築や社会、設計者にとっての未来の種をまくことに繋がっていると信じています。

宮武：活動を継続的に行うことで、メンバーから得ることも大きく、自身の成長に繋がっていると確信しています。

■会場の皆様とのトークセッション

鬼頭：本当は講演会の最後に会場の皆様とのトークセッションを企画していたのですが、残念ながら時間が押しすぎてしまい割愛させていただきました。私たちの活動にご興味ありましたらホームページに活動内容の詳細などを記載していますのであわせてご確認ください。本日はありがとうございました。

講演会を終えて

今回の講演会では単純な活動紹介とするのではなく、U-35 委員会が普段考えている想いや企画の裏側など生の声を聞いていただきたく、4人のトークセッション方式という発表を行いました。講演会後の懇親会の際にも多くの方にお声掛けいただき、来賓の皆様のご挨拶でも激励をいただくことができました。最後に、ご招待いただきました(公社)日本建築積算協会関西支部のご関係者様、来場いただき講演をお聞きくださいました皆様に深く感謝申し上げます。

(文責：鬼頭朋宏)